

仙台スマートの取り組み

仙台市では、市民、交通事業者、企業、学校、NPOなどと協働で、鉄道やバスなどの公共交通利用者の増加を目指すため、「せんだいスマート」をキャッチフレーズに公共交通利用促進の様々なソフト施策を推進しています。

「せんだいスマート」には、市民の方々に普段の移動で公共交通などを利用することを通して、健康面や生活そのものをスマートなものにしていただきたいというメッセージが込められています。



転入者への取り組み《せんだいスマートグッズ》

仙台市に転入されてきた方々の日常の移動手段として、公共交通をより便利にご利用いただくため、バスの路線情報やバスの乗り方などを分かりやすくまとめた公共交通利用促進グッズ（せんだいスマートグッズ）をお渡しするなど、積極的な情報提供を行っています。

《実施者》

仙台市

《対象者》
転入者

取り組みの概要

「せんだいスマートグッズ」は、転入される方が市内の各区役所で手続きされる際に直接窓口でお渡しするもので、公共交通、特にバスの路線情報やご利用方法のご案内など、その方々の日常の通勤・通学手段が決まってしまう前に、仙台市から積極的に公共交通に関する情報提供をすることで、公共交通（バス）をより利用して頂くことを目的としています。また、東日本大震災によって、住み慣れない土地での避難生活を余儀なくされた市民の皆様に対しても、生活の足として公共交通を利用していただけるよう、「せんだいスマートグッズ」を配布しています。

■せんだいスマートグッズ (年間 25,000セット制作)



専用ケースには、公共交通利用による個人的・社会的メリットや、仙台市内の公共交通の利用方法を解説した冊子、複雑なバス路線を分かりやすくデザインした市営・民間事業者の共通バスマップ、中心街の自転車駐輪場の位置と利用方法を解説した冊子が収められています。



■区役所での配布の様子



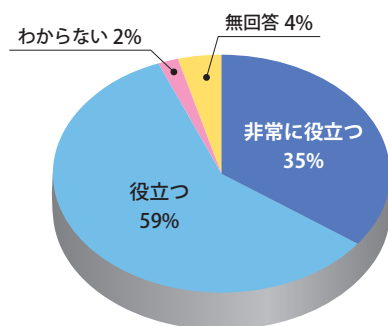
■転入者の方への配布資料



■公共交通利用あんない

■公共交通利用促進グッズアンケート調査結果

○仙台市での生活に役立つと思えますか？



「非常に役立つ」「役立つ」と回答した方が全体の 94%

連絡先

仙台市 都市整備局 総合交通政策部 公共交通推進課

HP: <http://www.city.sendai.jp/>

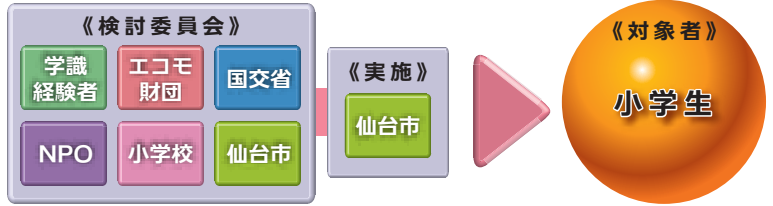
〒980-8671

宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

Tel.022-214-8353

小学生への取り組み《交通環境学習》

近年、自家用車の普及にともない公共交通機関、とりわけ路線バスの利用者は減少傾向にあり、子どもたちがバスに乗車する機会は非常に少なくなっています。そのため、仙台市では、交通と環境について学ぶ機会を創出することで、小学生の意識と行動を環境に配慮したものに誘導し、将来の公共交通利用者となってもらえるように「交通環境学習」の検討を行っています。



目 標

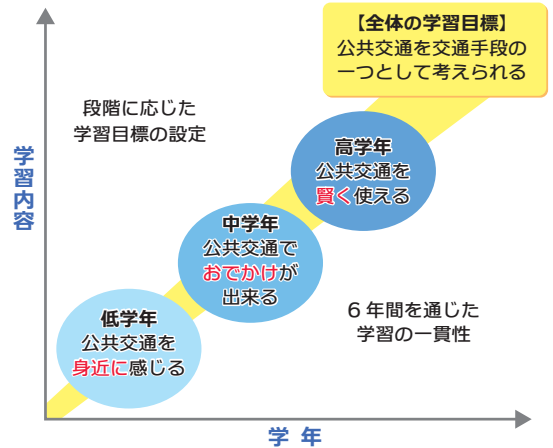
小学生交通環境学習の6年間を通じての目標は、「公共交通を交通手段の一つとして考えられる」ようになる児童を育てる事です。その際、低学年(1・2年生)、中学年(3・4年生)、高学年(5・6年生)と大きく3段階に分割し、それぞれの段階に応じた目標を設定して、全体目標に段階的に近づけていきます。

実施方針

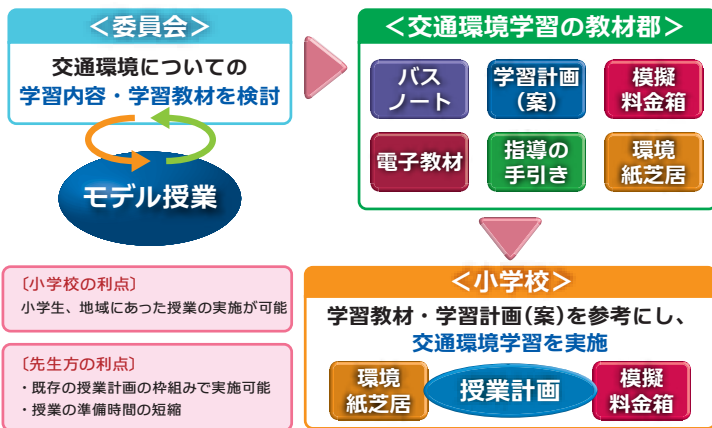
各校の授業計画の中に「取り組みやすく、効果的」に組み込む

小学校では非常に多くの学習プログラムが提案されています。そのため、新たな教科単元として交通環境学習を導入するのではなく、既存の教科単元と関連付けることで、小学校の通常の授業の中で取り組みやすいものとするとともに、先生の授業準備等の負担を軽減することを実施方針としています。

小学生交通環境学習の目標

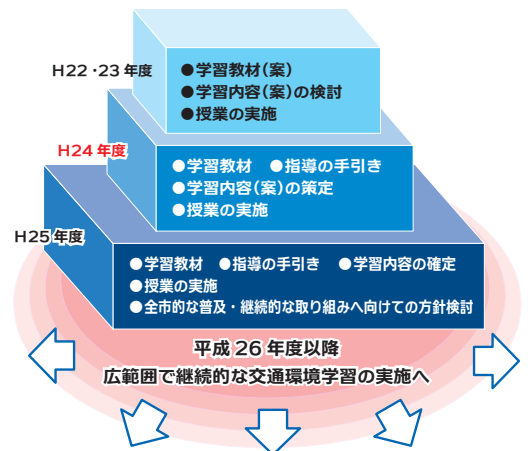


目指す交通環境学習のイメージ



- 〔小学校の利点〕**
小学生、地域にあった授業の実施が可能
- 〔先生方の利点〕**
・既存の授業計画の枠組みで実施可能
・授業の準備時間の短縮

全体スケジュール



教材と授業の状況

いろいろなりのもの



紙芝居



バスノート



事前学習のようす



乗車体験



大学生への取り組み《大学周辺交通情報マップ》

市外（県外）から市内の大学に入学する学生は、仙台の交通環境に不案内です。そのため、仙台市では大学・NPO・大学生協等と連携しながら各大学独自の交通情報ツールを作成し、新入生の入学手続き資料等に同封することで、新入生に公共交通の利便性の高い地域を居住地として選択してもらうなど、公共交通の利用促進を図っています。



実施概要

仙台市では、大学に交通情報ツールの作成の呼びかけをし、賛同を得られた大学にマップ作成費用等の支援や、マップ情報および各公共交通機関の時刻表の更新等のサポートを行っています。

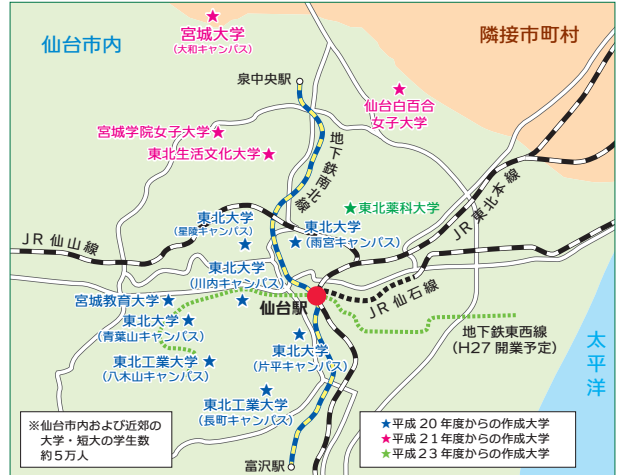
この交通情報ツールは、各大学の学生とワークショップ等を行うことで、実際に通学している利用者の視点に立って作成された大学独自のものです。作成後は大学自らが取り組みを継続しています。

■新入生への配布状況（H24年度）

現在、この取り組みは市内及び近郊の14大学（短期大学のみを含む）のうち8つの大学で行われており、今後も順次他大学へと拡大させるとともに、各種専修学校でも実施していきたいと考え

大学名	配布部数
東北大学	2,500
宮城教育大学	400
東北工業大学	700
仙台白百合女子大学	300
東北生活文化大学・短期大学	200
宮城学院女子大学	900
宮城大学／大和キャンパス	300
東北薬科大学	400

■大学交通情報マップ作成大学の位置図



各大学の取り組み

各大学とも在學生によるプロジェクトチームを中心に、大学生協、NPOなどの協力を受けながら、交通情報ツールを作成しました。バス路線の選定から、分かりやすいバス路線図の作成と時刻表の掲載、周辺的生活便利情報の紹介や留学生向けの外国語版の作成など、学生ならではの視点とデザイン性豊かな、各大学の個性が感じられるツールとなり、配布後のアンケート調査でも効果を感じられる結果となりました。



《東北学院大学バスマップ》



《東北大学バスマップ》



《宮城大学バスマップ》



《東北生活文化大学バスマップ》

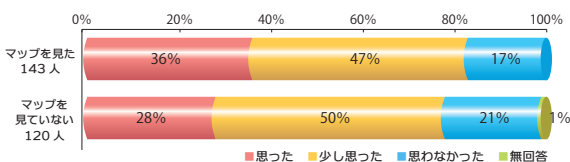


《仙台白百合女子大学バスマップ》

平成22年度新入生へのアンケート調査結果（平成21年度からの作成5大学）

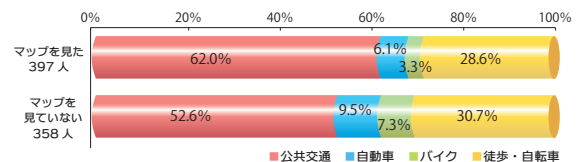
■居住地選定時の意識の比較（一人暮らしの学生）

・居住地を公共交通の利便性の良い所にしようと思ったか？



マップを見た人は、見ていない人に比べ、公共交通の利便性が良い所にしようと思った人の割合が約8%高い（N=263人）

■通学時の交通手段の比較



マップを見た人は、見ていない人に比べ、公共交通で通学している人の割合が約9%高い（N=755人）